

市役所職員から弁護士へ これからも変わらず大事にしたい 「説明力」と「傾聴力」

弁護士法人 LM 総合法律事務所
弁護士 廣瀬 雄大氏



2022 年 11 月、LTR メンバー竹中弁護士が代表を務める「弁護士法人 LM 総合法律事務所」に入所した廣瀬氏。長年の夢であった弁護士としての道を歩む中、前職（市役所職員）から変わらず大事にしているのは、「お客さまの話にしっかりと耳を傾け、納得していただけるように話す」ことだそう。これまでの経験を自身の強みとし、日々奮闘する中で感じたことや今後の目標などをお話いただきました。

「相手に伝わるように話す」ことの大切さ

「いつか、叔父さんのようになりたい！」弁護士だった叔父の姿を見て、漠然と憧れを抱いたのは小学生のころ。それから勉強の大変さを痛感しながら、2013 年に無事、司法試験に合格することができました。

しかし当時は、弁護士事務所への就職が非常に厳しい時代。司法試験に合格しても、一般企業に就職し法務部等で仕事をしている人が多かった印象です。私自身はその年に結婚したことで、一定の収入を得る必要がありました。そこで公務員試験を受験し、市役所で働くことになったのです。

市役所では、契約部門と法務部門にそれぞれ 4 年程在籍。夢であった弁護士ではなかったものの、それまで蓄えた法律の知識を生かしながら、充実した日々を過ごしていました。そしてこの期間、私は大きな“財産”を得ることになります。それは、「説明力」と「傾聴力」という二つの力を身に付けたことです。

ご存知のとおり、市役所は年齢や職業から生活環境に至るまで、実にさまざまな方が来庁します。複雑な説明が必要になるケースも多いため、常に相手の表情や状況を見ながら、「自分の話したことを理解してもらっているか？」を確認し、時には言葉や表現を使い分けながら説明してゆきます。同時に、相手の話にしっかりと耳を傾けることも欠かせません。市役所で働く人にとって、これらは日頃から当たり前に行っていること。しかし弁護士になり、これまでの経験が貴重だったことを実感しています。

「相手に伝わるように話す」弁護士として依頼主の方と

お会いした際、この点を意識するだけで、双方向コミュニケーションが成立し、その後の展開がスムーズに運び、そこから次第に信頼関係が生まれてゆくのです。私はこれからも、この部分を大切にしようと思っています。

弁護士事務所のイメージが覆された！

かつて私が思い描いていた弁護士事務所のイメージは、「静かで常に緊張感が漂っている」「先生同士の会話は少なく、若干ピリピリしたムード」といったものでしたが、ここに来て良い意味で裏切られました。

「弁護士法人 LM 総合法律事務所」は、弁護士の人数が多いこともあり、事務所内は比較的いつもにぎやか。先生同士も仲が良く、アットホームでオープンな職場環境です。代表の竹中先生をはじめ、所内には弁護士としてはもちろん、人間的にも尊敬できる方たちばかり。このような恵まれた環境で弁護士としてのスタートを切ることができ、改めて喜びを感じています。

「優れた交渉力」「コミュニケーション力の高さ」「戦略的に仕事を進めること」など先生方それぞれに強みがあるので、今は「皆さんの良いところをすべて盗みたい！」と思う毎日です。そして、私の強みは「説明力と傾聴力の高さ」と自信を持っていえるよう、1 日 1 日を大事にしながら精いっぱい取り組んでゆきたいと思います。

（取材・文／小林 真由美）

廣瀬氏の事務所 HP はコチラから→→



さらに詳しい記事が読める LTR ビト番外編はコチラから→→

